

連雀学園



様式6	平成29年度 連雀学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成	
	○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	・小・中の発達段階に応じて地域の人財や教育力を活用した教育活動の充実を図る。	
取組	○学園・学校支援組織の連携【取組4】 ・各小学校の支援組織の成果を中学校で活かす。 ・学校支援組織のスタッフとの連絡会や学習会を開催し、情報や意見の交換を行う。 ○キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進【取組8】 ・現在までの成果を活かして、各校で地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を行い、学園としての指導計画の確立とその成果についての広報を行う。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・一中では、夢育・南サポによる定期考査前の自習教室が定着し、地域人財による支援の取組が進んだ。 ・教員の85%が、学校支援組織を積極的に学習活動に活用していると捉えている。また、学習ボランティアの活用を更に推進し、理解者を増やしていきたいと考えている。 ・各校で地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進できている。一中ではCSサポート部の支援を得た中1の職業人に話を聞く会を21名の講師を招聘して実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校の支援組織のスタッフとの連絡会や学習会を、CSのサポート部が中心となって、年に2回開催し、情報交換や意見交換をし、よりよい支援体制をつくっていく。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育については、25%の教員が「改善の必要がある」と捉えている。年間指導計画や単元指導計画を毎年見直すとともに、次年度は三鷹市教育委員会作成の地域学習やキャリア教育の小・中一貫教育カリキュラムを基に、連雀学園としてのカリキュラムを見直す。

検証項目	(2) 学校運営について	
	○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	・学園の組織を活性化させ、各学校の組織との連携のもとに、組織的な課題解決力を高める。	
取組	○学園の教職員の当事者意識とCS委員会や地域、家庭との協働【14】 ・組織的な課題解決力の充実を図る。 ・メール、回覧、共有フォルダの活用を行い、必要な情報がすぐに伝達されると同時に自らも情報の発信者になる。 ・互いの職員室に自由に出入りできる雰囲気をつくる。 ・「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」など教職員同士やCS委員との交流や親睦を重視する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・共有フォルダ、メール、回覧、掲示板などは年間を通して有効に活用されており、情報の発信者としての意識も高い。反面、紙ベースの必要性も課題となってきた。 ・回覧板の活用が図られ、学園研究では一体感をもった取組ができ、会議が効率的に行われるようになってきている。今後も有効な活用の在り方を考え、実践し、効率的な学園運営を行う。 ・「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」などを通して、教職員の当事者意識は高まり交流も進んだ。そのことが学園研究でも成果として表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務PCについては、まだまだ効果的な活用方法がある。次年度校務PCの入れ替えがあるが、新しいPCやタブレットの効果的な活用方法を学園で共有していく。 ・CS委員会との交流が少ないという課題もある。学校とCS委員会、地域・家庭が「協働」してできることをCSの際に熟議を行い、よりよい交流や連携の方法を探していく。

検証項目	(3) 小・中一貫教育校としての教育活動	
	○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	連雀学園の実施方針に基づき、小・中一貫の教育活動の充実を目指す。	
取組	○学園研究の充実 ・28年度までの成果を生かし、小・中一貫教育の充実を目指し、これからの社会に求められる資質・能力の育成を意図し、新教育課程への見直しをもった教材の開発や指導法の改善を柱とした実践的な研究を行う。 ・授業研究を踏まえた「小・中一貫連雀指導計画」の改善を行う。 ○児童会・生徒会活動によるリーダーシップの育成 ・28年度の実績を踏まえ、児童・生徒が企画から関わられる活動を設定し、中学生のリーダーシップ、自己有用感を育成すると同時に、小学生のフォローアップや中学生へのあこがれの気持ちを育てる。また、小・中学校において、年間計画への位置づけ、特別活動のカリキュラムの改善など、児童会・生徒会の企画が生きるような環境設定をしていく。 ○交流活動の改善【取組5】 ・交流学習、中学校体験などのねらいや活動の見直しを継続的に行い、外部人材なども活用しながら推進する。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究を通して、教員も保護者もCS委員も、子どもたちがよりよく成長していると捉えている。 ・小学校では94%、中学校では89%の児童・生徒が、授業中に学び合い、課題を解決する時間があると捉えている。また、中学校では85%の生徒が「帰りの会で、その日の出来事を振り返っている。」と答え、振り返りの時間も大切にされている。 ・学園の研究推進部と各校の研究担当が協働し、綿密な計画を立て、研究が進められている。 ・学園研究と関連して、知的コミュニケーションを活かした学びが、子ども熟議や、連雀学園縦割り班活動などの実践の場で生かされている。 	課題と改善方針 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果や研究によってどう変化があったのか、子どもの成果をCS委員や保護者・地域にも見えるようにする事が課題である。年2回の児童・生徒の学習アンケートや、生活振り返りアンケート結果を分かりやすくまとめ、公表するとともに、年3回の学園・学校公開の際は、視点を絞った授業公開を行う。 ・学園研究のキーワードの一つである「連雀学園思考スキル」については、共通理解が不十分である。年度当初の学園研究会で「連雀学園思考スキル」について周知し、研究授業のみならず日常の学習活動で意識して活用させる。 ・平成31年2月15日の研究発表会に向けて、管理職会のリーダーシップのもとに、研究推進部会、教務主任が連携し、見直しをもった計画を年度当初に作成する。 ・次年度は連雀学園開園10周年記念の児童会・生徒会活動となる。年間の活動に見直しをもたせ、子どもの発想を生かすと同時に、余裕をもった計画を年度当初に立てるようにする。

検証項目	(4) 児童・生徒の学力・健全育成	
	○ 児童・生徒の学習意欲 ○ 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況 (習得、活用、探究) ○ 小学校と中学校の評価の一貫性 ○ 不登校、学校不応答等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童・生徒がわかる楽しさ、できる楽しさ、かわる楽しさを実感できる授業づくりを推進する。 健全 <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかい人間関係とよりよい生活習慣、運動を楽しむ意欲を育てる。 	
取組	学力 <ul style="list-style-type: none"> ○基幹学力の定着・向上【 ・児童・生徒の主体的・協働的な学習の推進を行う。 ・「三鷹『学び』のスタンダード」をもとに作成した「各校の学びスタンダード(学校版)」を生かし、基礎教科や理数系の教科等の学力の向上に小・中一貫教育の視点で取り組む。 ・ICTを活用した学習活動に取り組む。 ・相互乗り入れ授業を有効に活用する。 ・「東京方式 ガイドライン」に則った少人数・習熟度学習の推進を行う。 ・指導と評価の一体化の趣旨を踏まえた学習指導を重視する。 健全 <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の引き継ぎの会による児童・生徒理解の促進 ・中学校進学を控えた3月と中学進学後の6月に引き継ぎの会を開催し、引き継ぐべき内容を整理して情報交換を密に行い、個々への指導方針を明確にする。 ○実践力につながるあいさつ運動 ・目的を明確にしたあいさつ運動の実践、家庭への協力を呼び掛けるなど、年3回のあいさつ運動の取組に工夫・改善を加えながら実践する。 ・あいさつ運動をきっかけに学園で共通取り組む生活指導の充実を図ると同時に、子どもたちの自主的・自発的な活動を促す。 ○安全に関する正しい知識と高い意識 ・避難訓練、安全点検などを実施し、防災意識を高め、防災計画の改善を行う。学園で共通した取組や地域・保護者と連携した継続的な取組を行う。 ・三鷹市の方針を踏まえ、中学生の防災教育における知識・技能の習得と積極的な活用を目指す。 ○温かい人間関係の醸成 ・道徳や特別活動の時間等を活用し、教員と子ども、子ども同士の人間関係を構築する。 ・「特別の教科 道徳」の先行実施を充実させる。 ・「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえ、学園としての取組を明確にし、人権に配慮した教育活動を継続する。 ○オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・オリンピック・パラリンピックを題材とした教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の実践をボランティア等と協働して行う。 ・年間計画に健康教育を位置づけ、児童・生徒が自分の体力を知り、関心を高める授業を実施する。 ・地域のスポーツ大会やイベントへの参加など関係団体と協働した実践を行う。 	課題と改善方針 <ul style="list-style-type: none"> ・今後も4校で目標を明確にして研究組織、教科等を工夫しながら学園研究を推進していく。 ・児童・生徒にとって常に「分かる」「できる」「楽しい」授業の創造に努める ・「授業やクラスの中で、自分の意見を言うことは好きですか。」という問いに小学校で34%、中学校で50%の児童・生徒が否定的に答えている。学園研究や日常の授業などを通して、自分の意見を伝えることについて指導したり、学習活動の中に意図的に組み込んでいく。また小学校では、授業中や帰りの会などで「振り返りの時間」を設定する。
成果	学力 <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果から、平均正答率は全国、東京都、三鷹市の平均を上回っている。しかし、各教科、観点による分析では、不十分な部分が見えてくる。学園研究と関連させて授業改善を行い、一人ひとりに確かな学力を身に付けるための努力を怠らないようにすることが必要である。 ・小学校で94%、中学校で79%の保護者が、1年前と比べて学校生活を通して、学力が身に付いたと捉えている。 ・学園研究で高めた問題解決過程を重視した授業や知的コミュニケーションを活かした授業を他教科でも実践しようとする教員が増えてきている。「授業で、どんな時に分かったと思いますか。」という問いに、グループで話し合っ取り組んだ時や、友達の発言や説明を聞いた時と答えている児童・生徒が多い。 	

<p style="text-align: center;">健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で90%、中学校で89%の保護者が、1年前と比べて学校生活を通して、体力がついたと捉えている。また小・中とも97%の保護者が、1年前と比べて、学校生活を通して成長したと捉えている。 ・「自分には良いところがあると思いますか」という問いにも、小学校では81%の児童が肯定的に答えていて、自己肯定感が全校の平均より高い。 ・各校で計画的にオリンピック・パラリンピック教育を進めている。 	<p style="text-align: center;">健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の小・中引き継ぎの会は、その趣旨を再度明確にして実施する。 ・あいさつ運動については詳細化しているとかマンネリ化しているなどといった課題も指摘されてきている。CS委員会で、日常的・実践的なあいさつにつながる工夫などについての熟議し、学校と地域・保護者も含めて協働して取り組んでいく。 ・連雀学園4校共通の課題である「体力の向上」については、運動の日常化をねらった学園一体となった取組を計画し実践し、体力の向上と健康の増進を推進する。 ・児童アンケートから、いじめに対する指導やSCを含めた相談体制の確立を進めるとともに、様々な機会をとらえて指導していく。
---	--

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営	
	○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営	○ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況
	○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流	○ その他
目標	・コミュニティ・スクール委員会の効率的な運営を行うと同時に、CS各部の活動を充実させる。	
取組	<p>○子ども熟議による企画【取組9】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度までの実績を生かし、CS委員会が企画する「子ども熟議」をきっかけに新たな在り方を模索し、実践する。 ・CS委員会からの講評の機会等を活用し、児童・生徒が新たな視点をもつきっかけとなるようにする。 <p>○協働しての交流活動【取組11】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会の実行委員会が主催する地域の資源や人財等を活用した様々な取組を通して、学園として新しい交流の在り方を考え、実践する。 <p>○発信力のある広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[連雀学園NEWS]の内容の充実を図る。 ・ホームページの更新回数を数値目標を定めて行うとともに、内容の充実を図る。 ・学園要覧の配布範囲を広げたり、「CSガイド」を活用したりして、学園の教育活動についての理解と協力を得る。 ・「わが家のスタンダード」の活用について、広報活動を通して家庭の理解と協力を得る。 <p>○学園経営に直結し、児童・生徒の姿で評価ができるような評価の在り方を探る。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども熟議は、数年間続けてきて進行と発表に大人が関わらないでも、中学生を中心としてしっかりと成り立ち結果に結びついている。 ・各部とも工夫や改善を行い成果を上げている。サポート部は各小学校団体との連携や一見守り、子ども熟議、職業人の人材募集と一定の成果を上げている。広報部は年間の発行計画を立て実行し、更に良いものをという向上性が見られる。評価部は、今年度、学園評価のためのアンケートの大きな見直しを行った。 ・連雀学園ニュースも82%の保護者に読まれている。 ・「連雀学園わが家の『まなび』のスタンダード」は、シンプルで分かりやすく、各家庭に合った目標を具体的に立てられることができるので活用しやすくなった。 ・三鷹市教育委員会と連携して、学園・学校経営に反映できる評価を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども熟議については、その良さをさらに多くの児童・生徒が体験できるように開催方法について工夫していく。 ・CSだけではなく、情報伝達方法については、フェアキャストの効果的な活用方法も含めて、さらに改善を加える。 ・「連雀学園わが家の『まなび』のスタンダード」については、配布するだけでなく、活用の様子についても調査・分析し改善を加える必要がある。そのためには、CS委員会内に担当を設置する。 ・CS委員会での協議の時間を確保する。そのために、開始時刻を30分早めるなどして、CS委員会の時間を2時間に縮める。

平成29年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (5) の検証結果を踏まえて	<p>1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園研究第II期2年次として、4校で「創み出し、かかわり、高め合う児童・生徒の育成～知的コミュニケーションを活かした学び～」というテーマで、昨年度までの研究成果である知的コミュニケーションを切り口とした副主題で取組だ。研究教科・領域は、社会科、理科、生活科、体育科、保健体育科、「特別の教科 道徳」とした。新たな課題に対して、教科、領域で学園の児童、生徒に問題解決能力やコミュニケーション能力をつける手だてを探ることができた。またそのことを通じて、児童、生徒の学力および社会力、人間力を高めようとすることができた。 ・コミュニティ・スクール委員会のサポート部の企画のもとに10月に実施した子ども熟議では、昨年度考えた「連雀学園SNSルール」を守るために、どうしたらいいかをテーマに各学校の代表者同士で熟議を行い、児童、生徒の心を豊かにする活動が実施できた。 ・学園経営に直結し、児童・生徒の姿で評価ができるような評価の在り方を探り、実施することができた。 <p>2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園内の共通理解を更に進め、平成29年度で明らかになった課題を意識して学園研究に取組、研究発表会を行う。 ・連雀学園開園10周年の記念の年に当たり、児童会・生徒会活動を活性化させ、連雀学園のきずなを深める取組を行う。 ・小・中引き継ぎの会の意義を再確認し、内容を整理して情報交換を密に行うことによって個々への指導方針を明確にする。 ・いじめに対する指導やSCを含めた相談体制を確立させ、温かい人間関係の醸成を図る。 ・CS委員会の議事の内容を整理し、協議の時間を確保する。 ・「連雀学園わが家の『まなび』のスタンダード」について、積極的に広報活動を進めるとともに、活用や成果を検証し改善を図る。 ・連雀学園4校共通の課題である「体力の向上」については、運動の日常化をねらった学園一体となった取組を計画・実践し、体力の向上と健康の増進を推進する。 <p>3 「2」の重点課題を解決するための改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の研究全体会で研究の重点や方法等について共通理解を図るとともに、学園研究推進部会を定期的に開催して、年間を見通して研究を進める。 ・平成30年10月17日の記念式典、7月6日の開園10周年記念児童会・生徒会主催連雀縦割り活動を4月には素案を提示し、年度当初から計画的に準備を進める。 ・3月の中学校入学前の引き継ぎの会、6月の中学校入学後の引き継ぎの会の内容を今年度中に整理して、引き継ぎの会を実施する。 ・日常の指導、学期当初の指導、SCによる全員面談などを通して、相談しやすい体制を年度当初に構築する。 ・学園管理職会、CS役員会等で内容を整理するとともに、開始時刻を30分繰上げ、話し合いの時間を確保する。 ・CS委員会内に「まなびのスタンダード」担当を設け、担当を中心に広報、評価、改善を図る。 ・長縄跳び等に連雀学園4校で共通して取り組む。